

もっと知ろう “陶”

21、お正月

キリスト教国の最大行事はクリスマス、神仏の国である日本の最大行事はお正月です。

<正月準備>

松の内（門松のある間）の始まりは12月13日で、これ以降正月準備が始まります。というのは昔の話で、今はクリスマスがあるのでそれ以降と言うことでしょうか。

昔は門松を各家庭で作っていましたが、1952年頃（戦後間もなく）森林資源の保護を目的（緑化運動）に竹藪を守る、松を守るという意味で紙の印刷門松が各自治体から配布されるようになり、各家庭での本格的門松は少なくなっていました。子連のどんど祭りを盛り上げる意味でも復活させたいものです。

もう一つ、正月準備で思い出すのはこの地方独特のぼろ餅です。もち米7：うるち米3くらい（比率は各家庭で様々）でついたもので、表面に米の粒が少し残ることから「ぼろ餅」と言われています。焼き上がりが香ばしく、歯切れがよく普通の餅ほど伸びないので喉に詰まるということはないので老人に優しい餅だと思います。砂糖醤油で食べると全くおいしい。雑煮には向かない。



<お正月>

年が明けると各地区の産土神（猿爪…天神社、水上…水上神社、大川…八王子神社）、そして、人によっては伊勢神宮へ、熱田神宮へ、あるいは豊川稲荷へという人もいますが、私が聞くとところでは近い所で山岡の飯高さんへの初詣が一番多いように思います。

私たちが子供の頃は元旦には学校に行き、校長先生とPTA会長さんの話を聞いて、紅白の饅頭を頂いて帰ってきました。

この地方では、正月2日朝に男性がとろろ芋をすってとろろ飯を食べる風習があります。その年の幸せを擦り込むという意味もありますが、正月も忙しく働く女性を男性がいたわる粋な計らいでもあります。

兄弟親戚相集い、「あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひします。」と新年の挨拶をし、旧交を温めながら、今年一年の安泰を願ひます。

各家庭 毎年、同じルーティーンで正月を迎え、同じような正月を過ごす。これが平穏な1年を迎えることだと思います。